

鐵鋼協會・土木學會・火兵學會・煖房冷藏協會・造船協會・建築學會・工學會・工業化學會・電氣學會・電信電話學會・機械學會・照明學會等相聯合して一大祝賀會開催の議ありしが、愈々去る四月二十四日小石川植物園に於て之を開催し、且本會よりは別に祝辭を呈せり。當日石黒博士の開會の辭、各學會總代會稱博士の祝詞及本會の祝辭は左の如し。

□石黒博士の開會の辭

今回古市博士が授爵の光榮に浴せられました爲に、工學・工業に關係の十四學會、即ち之をイロハ順に申せば、日本鑛業會・日本鐵鋼協會・土木學會・火兵學會・煖房冷藏協會・造船協會・建築學會・工學會・工業化學會・帝國鐵道協會・電氣學會・電信電話學會・機械學會・竝に照明學會の各會が申合せ、聯合して祝賀會を開く事になりましたので、御病後御迷惑とは存じましたが、御出席を願へやうかと尋ねました所、御快諾下され御出席に相成り、今日此の祝賀會を開く事が出来、而して私が茲に開會の辭を述べます事は私の殊に欣喜とする所なるのみならず、且光榮とする所であります。

抑も古市博士は明治二年に一ツ橋外の開成所に入られ、(元と護持院の跡で護持院が原と稱し、今の東京商科大學の在る所であります)佛學を學ばれました、其の開成所は夫より大學南校となり、更に第一中學校となり、次で開成學校となつたが、終りに之を本郷の今の東京大學の位置に移され、東京大學法理文三學部と稱せられ、今日の大學の元になつたのであります。博士は在學中明治三年十月滯の貢進生となり、明治八年七月文部省から佛國留學を命ぜられて

●古市博士授爵聯合祝賀會

本會理事たる工學博士古市公威氏は客年十二月二十七日男爵を授けられたるを以て同氏に關係を有する日本鑛業會・日本

エコー・サントラルに入り、十二年八月佛國農商務省からアンジェニエルの學位を受け、更にフッカルチー・ツ・シヤンス・ツ・ユニバルシチー・ツ・パリに入つて理學を修め、十三年七月同國文部省からリサンシエの學位を受けられ、同年十月歸朝され、同年十二月内務省土木局雇を拜命せられ、翌十四年准奏任御用掛となり、同十七年内務三等技師に任せられ、夫から漸次昇進して同二十三年六月土木局長に任せられました。同三十一年七月に辭任せられました。此の内務省に在職中に、明治十九年五月から同二十一年十一月迄と、更に同二十二年十月から同三十一年七月迄と前後通じて十一年餘は又工科大學長をも兼任せられました。

工科大學は明治十九年文部省所管の東京大學と工部省所管の工部大學校とが合併致しまして東京帝國大學と改稱致しました。其の際一分科大學として設立せられましたもので、當時從來の所管の關係上、此の工科大學長に新任せらるべき人の人選に就ては頗る揉めたものであります。終に古き市博士の就職を見るに至つて幸に何等の障礙をも見ず、教職員融和協力して、よく圓滿なる發達を遂げ、工業教育の基礎を確立する事が出来たのは君の力に由る所が多いのであります。

又明治十三年君が土木局へ就職せられてから其の退職迄十八年間に、我國の土木事業並に土木行政の爲に盡された功績の一斑を申し上げます。抑も内務省に於て河川工事を始めましたのは明年七年五月澁川の改修に着手したのを手始めと致し、夫れから段々各川の工事も起して明治十八年六月迄には十四大川の工事に着手致しましたが、其の初に

於ては是等の改修工事の設計は和蘭のヴァン・トールン氏など、云ふ凡て外國から僱聘して來た技師の手でやつたものでありましたが、君が職を土木局に奉じてからと云ふものは漸次之を我國の技術者の手に收めるに至つたのであります。十四大川工事の施行を見るに方つては、君は其の中の阿賀・信濃・庄の三大川の工事監督を分擔せられました。其の時分又各府縣で水害復舊工事を施行するに際して、國庫補助として支出せられる金額が往々にして徒らに多額に上る弊がありました。此の弊を除く爲に技術官をして水害復舊工事を検査させる事になつたのは是れ君が建議に基いたものであります。

明治二十一年十一月山縣内務大臣が歐洲巡回の途に上らるるに際して君は其の隨行を命ぜられて歐洲諸國に於ける土木工及其の制度を視察して歸られ、其の結果本邦土木行政の爲に貢獻せられた所も尠くないのであります。

君の土木局長在職中には又重大なる土木上の問題が尠からずありましたが、就中濃尾震災の復舊工事の如き、又横濱築港埠頭龜裂問題の如き、大阪築港の如き、その他各地水害復舊工事に關する件等、孰れも帝國議會の問題となつたのであります。君は其の間常に政府委員として其の衝に當り盡力された所尠くないのであります。君が其の政府委員たりし事は内務省所管に於て八回、遞信省所管に於て四回、韓國統監府所管に於て一回、合計十三回政府委員として起られたのであります。

又本邦の治水事業の基礎確立に關係ある河川法の制定に關しても、君の力が與つて尠からざるものがあるのであります。

ます。

次で逓信次官、逓信省總務長官等を経て鐵道作業局長官、京釜鐵道總裁、韓國統監府鐵道管理局長官等に任せられたが、其の逓信省に在職中、明治三十三年には所謂北清事件があつて、軍事に關する逓信事務に就て君が畫策せられた所も亦尠くなかつたのであります。

鐵道作業局長官から京釜鐵道總裁に轉せられたのは明治三十七年、帝國が露國と事を構へるに方つて京釜鐵道の速成は軍事上より國家の安危に重大なる關係を及ぼす事になりますので其の主眼たる總裁其人を得るに中々困難致しましたが、當路の切なる勸誘によつて君は敢然意を決して此の難局に當られたのであつて、其の苦心は實に名狀すべからざるものがあつたこの事でありませうが、君は此の所謂命懸けの事業に於ても能く經營を誤らず、着々効果を收めて軍事上に幾多の便益を與へられたのでありまして、即ち彼の三十七八年事件が我國に光輝ある戦捷を與へた原因には此の京釜鐵道の速成をも其の一に數へざるべからざる事と思ひます。

次で君は統監府鐵道管理局長官に任せられて戦後の朝鮮鐵道統一に關して亦非常な苦心を以て盡力せられた事でありませう。

以上は主として君が在官中、本務に係るもの、功績の唯其の一斑に就て述べたに止まりますが、此の外市區改正委員、土木會委員、港灣調査會委員、鐵道會議々員、教育會議々員等として、又鑛毒事件、鐵道國有、議院建築、廣軌鐵道等の諸問題に於ける委員として又第三乃至第五回内國博覽

會に審査部長として、又製鐵事業調査委員長として、其の他各種の委員評議員として、又顧問或は囑托として我國の工業に關する事務に執掌せられた功績も尠くないのであります。

帝國學士院會員としては明治三十九年以來會員に列して現今では第二部長であり、又最近には理化學研究所長の職に就かれ本邦科學の發達に貢献せられつゝ、ある所尠からず、貴族院議員としては初期以來議席を有して今に至るまで約三十年、其の間國家に貢献せられたる所亦尠からず。又東亞興業會社創立に際しては時の總理大臣桂公爵、外務大臣小村伯爵の依頼によつて其の社長となり、日支兩國の關係上多大の貢献をせられ、當時僅に一百萬圓の資本を以て成立したものが今日見るが如き擴張發展を見るに至つたのも亦君の功績として忘るべからざるものであります。

其の他工學會の幹事、副會長、會長としては約三十二年間同會の爲に盡瘁せられ、又工手學校管理長としては明治三十四年以來約十五年間勤続せられて國家富強の基たる工學及工業の發達並に其の要素たる技術者養成に盡瘁して來られた功績も是亦没すべからざるものであります。

斯の如き功績ある古市博士の事でありませうので、宮中に於かせられても此の功績を御認めになり政府當局に於ても勿論之を認められて今回男爵を授けられましたのは、實に喜ばしい事でありまして、國家と共に之を祝せざるべからざる次第と信じます。

我國にはもと士農工商と申しました事がありまして、之に起因したる譯でもありませんまいが、今日迄の處を見るに、士

に屬する陸海軍人を始めとし、法なり、文なり、醫なり、又商に屬する者までも授爵の恩典に浴せられたる者少からず、然るに獨り工に屬する者のみには未だ其の事なかりしは甚だ遺憾千萬と考へて居りましたが、是は工學なるものが賤學と申す譯でもありますまいし、又た其の人なき故にもあらざりしならんに、今日迄授爵の事が無かつたのは、實に遺憾とする所でありましたが、今回始めて此の事がありましたので、殊に古市博士御一人のみ、其の後二人までも同じく授爵の恩典に浴せられたる者ありたるに拘らず、昨年十二月二十六日に於て特に御一人のみ授爵されましたのは、博士の御名譽此の上なき次第で、これ獨り博士の御名譽のみならず、又我が工學界の名譽であつて大に誇とする所であり、爲に諸君と共に今日大に祝賀すべき事であると思ひます。終に臨み尙申上げますのは、男爵には御自愛の上御健康を保たれ、益々國家に御貢獻あらん事を願ふ次第であります。私は之を以て今日の祝典に於ける開會の辭に代へ、而して諸君と共に男爵の御健康を祈るものであります。

□曾爾博士の賀詞

吾が工學界に於て最も尊敬するところの工學博士古市公威君舊服時に華族に列せられ勳功に依り男爵を授けらる洵に博士御一家の光榮名譽たるのみならず、我等の學會協會も亦延いて其の餘榮に浴するを得たり、此に於て、我等工學に關係ある學會協會十四團體は日本の吉辰を卜し博士を招聘し授爵祝賀會を開き不肖曾爾達團體一同を代表し賀詞を呈するの光榮を有す。

博士は我國土木學界に於ける先覺者にして亦其の權威たるは世の周く知るところなり、加ふるに其の學識材幹共に時流に超絶し衆望自ら歸す、實に全工學界の泰斗と謂ふべし、而して博士の經歷を顧るに常に樞要の地に立ち工學の教育及工業の行政乃至施設に至るまで殆ど博士の關與せざるはなく、關與すれば必ず誠心誠意之に當り時に身命を賭して其の實效を擧げずんば止まず、其の國家に貢獻するところ極めて大なり、是を以て朝野の信賴歳と共に加はり德望一世を蓋ふ、宜べなり朝廷亦其の勳功を認められ榮爵を授け給ふ。

惟ふに我國運の隆昌其の基くところ多々ありと雖も、工學工業の發達は其の一大主因たりと斷言するを憚らず、然るに世は却て法律經濟政治軍事の類をのみ謳歌し、久しく工學工業を等閑視せるの憾ありたり、近時漸く覺醒して稍其の状態を改め殊に歐洲戰亂の影響に鑑み、爾來著しく之を重要視し來り進んで之が向上を促すに至れるは邦家の爲め寔に慶賀に堪へざるなり、此の時に方り博士の授爵あり我等は此の恩命の寧ろ晩かりしを感ずるものなりと雖も而も斯學斯業一層發展の徴として欣喜措く能はざるところなり、蓋し博士の如き工學界の元勳人格嵩高の偉人を顯彰せずして將た誰をか顯彰すべきや。

本日此の祝賀會の招聘を容れ公私多用なる博士の來臨を忝ふせしに拘はらず供するに粗酒粗肴を以てするは汗顔の至りに堪へず、幸に我等滿腔の熱誠を諒とし以て半日の歡を盡さるゝを得ば我等一同の本懐之に過ぎず。

大正九年四月二十四日

- 日本鐵業會
- 日本鐵鋼協會
- 土木學會
- 火兵學會
- 煖房冷藏協會
- 造船協會
- 建築學會
- 工學會
- 工業化學會
- 帝國鐵道協會
- 電氣學會
- 電信電話學會
- 機械學會
- 照明學會

右總代 工學博士 會 彌 達 藏

□帝國鐵道協會より贈りたる祝辭

拜啓奉寒料峭之候益々御清程奉大賀候陳者閣下今回勳功に依り特に男爵を授けられたるは誠に御家門の御光榮にして本協會の面目亦不過之と奉存候茲に理事會の決議を以て恭しく賀詞を呈し併せて御健康を祈り候 敬具

大正九年一月二十二日

帝國鐵道協會

會長侯爵 大隈 重信

男爵工學博士 古市公威閣下

因に正會員安川敬一郎君、贊助會員川崎芳太郎君も其の後男爵を授けられたるを以て本會より右同様の祝辭を呈せり。